

# 緊急速報!

## わらの里通信

寒さも本格的になって参りました。皆様におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、この度、嬉しいお知らせが北風と共に当施設に舞い込んで参りました。数ヶ月間にわたって、利用者みなさんと共に製作し完成した、紙風船地球儀「モザイク・アース」の記事が、12月6日付の読売新聞朝刊・地域欄に掲載されました!

スーパーや産地直売店、道の駅などで売られている。佐藤さんは豆腐をベースにしたドーナツを2009年に商品化。妹の藤原充映さん(43)とともに「豆腐や豆乳で作るプリン、チーズケーキなどを屋外イベントなどで販売している。購入した人からは「ふんわりとしておいしい」「ヘルシーで安心」と好評だという。

真弓さんは「スイーツをきっかけにお店を知ってもらい、手作りの豆腐を味わってほしい」と話す。(佐藤裕子)

紙風船合わせ地球儀

■八街 障害者施設「八街わらの里」が、紙で作ったモザイク状の地球儀(直径1.4m)を作った。

11月の市民文化祭に初出展した。会場を訪れた利用者らが地球儀が展示された喜びを分かち合った。

地球儀は段ボールで作った球体の周りに、紙風船約1600個を貼り付けて作られている。紙風船は6色の折り紙で作った。日本は赤い紙風船4個分の大きさだったという。障害者らが約3か月かけて制作した。

生活支援員の花沢直忠さんは「作品を作り上げた達成感は、日常生活のやりがいにつながる」と話す。

施設にはこのほかにも、ペットボトルのラベルを貼り合わせて描いた象の絵や、小さな折り紙をいくつもつなげて描いた樹木の絵などが飾られている。石本勝江施設長は「作品を展示することで、生きがいとなるようにしたい」と語っていた。(今関富士子)

応募総数は36校211点で、前回より15校82点増えた。飯田さんの作品は、雨上がりの道にできた水たまりに映る女性の姿や風景を繊細な油彩で描いた。審査員の中山忠彦・市文化振興財団理事長は「水に映る虚像をテーマに選ぶ逆転の発想が面白い」と評価した。

応募作品は16日から来月1月

松戸六実高・飯田さん  
絵画コンで最優秀賞

市川市が市内と近隣4市の中高生を対象にした公募展「第6回いちかわ未来の画家コンクール」の審査が5日、同市真間の市芳沢ガーデンギャラリーで開かれた。いずれも松戸六実高で、

「中」と見込まれ、県教委は近く、る業界団体に教室を情報提供し、円(注)を要請するとい

この「モザイク・アース」は、9月に「やちまたふくしフェスタ」に、また11月には「八街市民文化祭」に展示させて頂き、多くの来場者に見て頂きました。そしてこの度の新聞掲載により、更に多くの方々が、皆さんで作りあげたこの作品を目にすると共に、八街わらの里という施設を広く知って頂く機会になればと願っております。今後も、様々な形で、八街わらの里を盛り上げていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

八街わらの里